



緑区

みどりのきずな

平成30年3月31日発行 第34号

編集: 緑区支え合いのまち推進協議会広報部会 発行: 緑区支え合いのまち推進協議会事務局 緑保健福祉センター内

TEL:043(292)8142 FAX:043(292)8276

施設の高齢者と子どもとの交流

—やつでの手に包まれたもみじ手の温もり—

委員長 岡本 博幸

「人は皆死を迎えるまで我が家で過ごしたい。そして温かい家族に守られながら日々健康で過ごしたい」

「地域の人たちと話したり、お茶を頂いたりして、日々過ごせることを大切にしていきたい」

誰もがこのような夢を描いています。しかし、体の衰えや家庭の事情にて施設で生活しなければならぬ方々もたくさんいます。

施設に入れば孤独な日々を過ごさなければなりません。過ぎ去りし日々の思い出に浸りながら、また施設のプログラムに沿って生活し生き甲斐を求めている日々だと思えます。単調な生活に夢と希望を与えてあげることは福祉行政にとって大きな役割だと思っています。

そのひとつが、学校の児童・生徒と施設の方々の交流です。

ドウダンツツジの紅葉が美しく色づいている坂道を登っていくと、木々に囲まれた特別養護老人ホームときわ園がありました。訪問のきっかけは、園の事務長の方から「鏡戸幼稚園との交流は感動的です。是非見に来てください」と誘われたことです。幼稚園との交流は「学校と施設との交流・小委員会」では行っていないので、どのような交流をしているのか、是非参観してみたいと思いました。また高齢者の喜ぶ顔も見てみたいと思いました。

11月22日(水)、園長先生をはじめ、年少組「もも・みかん・いちご」の担任と61名の園児が入ってきました。高齢者の顔には自然と満面の笑みが溢れてきました。「かわいい。こんな時が私にもあったのだ」との声が聞こえてきました。眼を細くして前のめりになって子どもたちの様子を見つめていた高齢者の方がたくさんいました。

最初に「山の音楽家」の合唱があり、続いて高齢者に4人の園児が寄り添い交流が始まりました。

「温かいお手々だね、お名前は、いくつ、なにが好き、先生の名前は、お絵描き好き、どんな遊びしているの、テレビ何見ている、じゃんけんしよう、おばあちゃんもかわいい時があったよ」

お年寄りの方々は両手に子どもの手を包みながら、ほほを寄せ合い、園児から温もりと喜びと生気を頂いていました。上手に話すことは必要ない。たどたどしい話でよい。目の前に園児がいる。そのことだけで目的は果たされていました。なかには、涙をそっと拭きながら話している高齢者や抱っこして触れ合う高齢者もいました。

皆さんは、何を思い・何を考え・何を想像してこのひと時を過ごしたのでしょうか。—私も幼稚園時代にバスケットを持って通ったこと、パンにジャム塗って買ったこと。お店の中を覗きこみながら歩いたこと、石家さんの石を刻む様子を飽きずに眺めたこと、乗物を揺らして遊んだこと、「悪いことをしたら裏の防空壕に入れる」といわれた穴のこと、写真に写っている友達の顔—等が走馬灯のように思い出されました。

ときわ園の掲示に『ぬくもり・やすらぎ・くつろぎ。ほほえみ・ふれあい』は人生の贈り物と書かれていました。園児たちとの交流はまさしく人生の贈り物を授けてくれたひと時でありました。人間は一人では生きていけません。多くの方々から、心の贈り物を頂き、差し上げることそのことが福祉の精神ではないかと思いつつ園を後にしました。

緑区推進協に「学校と施設との交流・小委員会」があり、平成24年から交流促進を進めています。最初は「手紙から始まる絆の復活」が目的でありました。ここ5年の間に、手紙のほか、学校行事への参観や訪問等、特色のある交流が行われるようになりました。中学校は泉谷、土気。小学校は小谷、椎名。施設はけやき園、ミモザおゆみ野、ときわ園、千寿苑、グリーンユウ、根本家です。今後は、福祉に関心を持ち、積極的に関わっていただける学校が増えることを期待しています。

椎名地区

「歳末の見守り活動」でお元気確認

12月末、民生委員と社協・地区部会とが協力して、80歳以上のおひとり住まいの高齢者、22名のお宅に手土産を持って訪れ、よもやま話をしながら日常生活で不自由な事などをお聞きし、「いつでも相談にのりますよ」と勇気づけしました。

自活を出来る素晴らしさを喜び合いました。

「サザエさん」の歌を手話で表現
♪お魚くわえたドラ猫〜♪

《福祉体験で多くを学びました》

椎名小学校の児童は、身体の不自由な方とふれあい、生活ぶりを見たり聞いたりして、どんなお手伝いが必要かを体験しました。

5・6年生は義足を着用して不自由さを体験。3年生は目の不自由な方とのコミュニケーションの取り方にも挑戦し、「手話」だけでなく、ジェスチャーや口の動きでも相手に伝わることを学びました。

手話で「サザエさん」の歌も唄いました。

次世代を担う子どもたちの体験は将来にきっと活かされることでしょう。

見えないとこわいよ

誉田地区

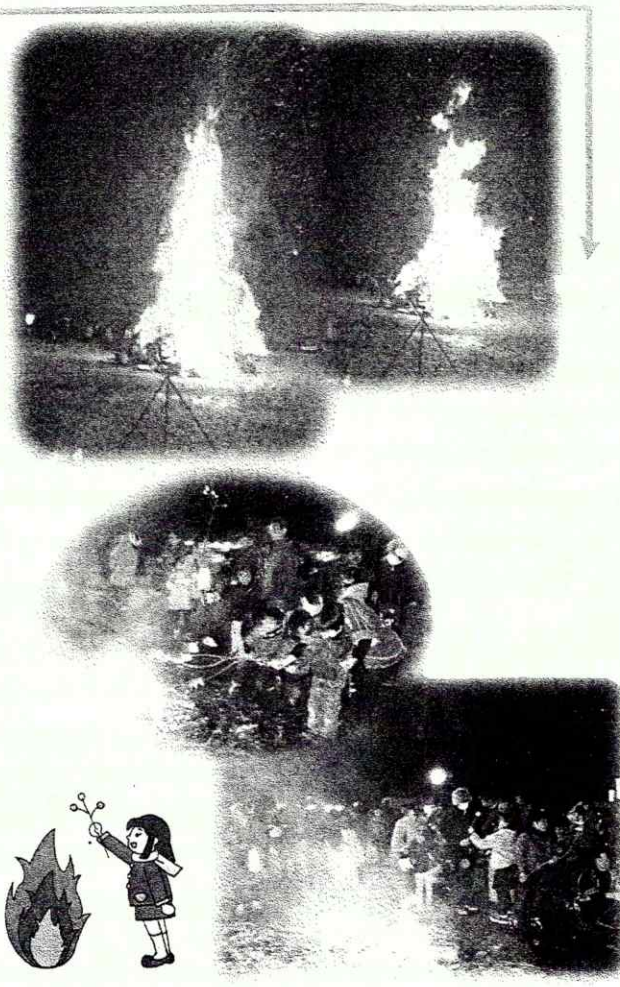
辺田町どんど焼き

1月13日（土）、辺田町どんど焼きが三社神社神輿庫広場（平山小下）で行われました。どんど焼きは約50年余前までは、全国で新年の伝統的な行事として行われていました。その後、宅地化等でどんど場の確保が難しくなり、取りやめるところが多く、辺田町も例に漏れなく途絶えていましたが、町興しの一環として、三社神社氏子有志によって再開され、今年で22年目となりました。

どんど焼きは、新年に飾った正月飾りや神社札を燃やし、旧年の無事を感謝し新たな年の安寧と安泰を祈るという催しです。中には習字を奉納し、字が上達する事を祈る事もあります。

日も暮れた午後6時、三社神社からのご神火が、どんどに点火され、竹の勢いの良い弾ける音が響き、空を真っ赤に焦がす火祭りが盛大に行われました。

どんど焼きが終わった後、子どもたちに配られた枝餅を、燃え残り火で焼き食べることで、健康、学業向上等を祈りました。



土 気 地 区

第35回土気地区小中学生マラソン大会開催

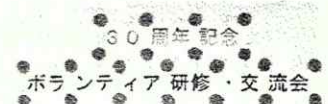
1月13日(土)、良い天候に恵まれて第35回土気地区小中学生マラソン大会が開催されました。今年も寒さに負けず、小学校4年生から中学生まで456名の児童・生徒の参加があり、盛況のうちに開催できました。

中学生の部が最初にスタートし、大会が始まりました。選手だけではなく、各学校の関係者や保護者等、多くの方々が応援される姿が会場のあちこちで見られました。レースの後は、お汁粉を食べながらの地区小中学生の交流の場にもなりました。



地区部会30周年ボランティア研修・交流会の開催

2月21日(水)、土気地区部会が活動を始めて30年の節目を迎えることを記念し、土気公民館でボランティア研修が開催されました。総勢90名を超えるボランティアの方が参加しました。活動されてきた方々のお話を聞きながら、今までの活動の歴史を知り、高齢化率の高まりという現在の社会状況の変化と福祉の意味、これからの活動のあり方も考えられるよい機会となりました。また、日頃はなかなかできないボランティア同士の交流を深めることもでき、大変意義深い研修会となりました。



お ゆ み 野 地 区

「みどりのかふえ」のご紹介

1. はじめに

この度、イオン鎌取の向い側にある「食事処とき田」様の定休日に「みどりのかふえ」を開設いたしました。食事処とき田様の地域コミュニティ作りに対する深いご理解とご協力があり、実現いたしました。毎週水曜日(10:30~21:00)の定休日に店舗の客席スペースを無料開放していただいております。昨年9月の開設以来、毎週多くの近隣シニアの皆様楽しんでいただいております。

2. 「みどりのかふえ」の運営の目的

千葉市が進める地域包括ケアシステムの一つであるシニアリーダー体操教室のボランティア活動を基軸として、MC I (軽度認知障害)、障がい者及びその家族の皆様が集う場所と、コミュニティの高度化の為に地域のボランティア団体、地域医療関係機関、行政出先機関との協働を目指した内容の事業を行います。

3. 「みどりのかふえ」の事業内容

長期間通所として参加していただく事に本来の目的があるとするならば、健康寿命を延ばす為のコミュニティの場として、多様化する通所者の嗜好に沿い「楽しく」を複合的に提供する新しい居場所作りを目指しております(参加無料)。



時間割	毎週水曜日 開催内容	備考
11:00~13:00	MC I・障がい者及び家族の集い	
13:00~14:00	シニアリーダー体操教室	
14:00~15:00	おゆみ野歌声喫茶(音楽療法)	
15:00~16:30	懐かしの映画館	不定期
16:30~	音楽演奏会その他	不定期



おゆみ野歌声喫茶(近隣ボランティア参加も)

皆様のご来場をお待ちいたします。

委員の一言 コーナー



千葉県身体障害者連合会
廣田 健次



千葉県では、2年後の東京オリンピック・パラリンピック開催を控え、障がい者施策の充実を図っており、中でも「心のバリアフリー」に力を入れていて、その一環として、小・中学校での福祉教育を推進しています。

私が所属する「千葉県身体障害者連合会」でも、市からの要請を受け、障がい当事者を学校現場に派遣し、児童・生徒と交流する取り組みを続けています。

写真は、私が区内のおゆみ野南小学校を訪れた時の様子です。

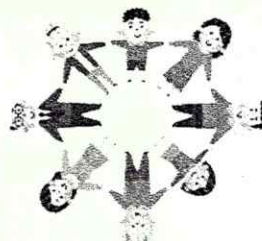
この日は、白杖を持った視覚障がい者をどうやってサポートするのか、実際に体験して

もらいました。授業で話を聞くだけでなく、経験を重ねる中で、子どもたちに何かを感じてもらいたいと願いながら、今後もこうした活動を続けていきたいと考えています。



ふくしトピックス

◆見守り・支え合いボランティア講座◆ (千葉県社会福祉協議会 緑区事務所)



1月27日(土)、緑保健福祉センターにて菅田地区エリアに在住の方を対象に「見守り・支え合いボランティア講座」を開催いたしました。緑区内では、平成27年度からこの講座を各地区で開催しており、今回の菅田地区ですべての地区で開催したことになります。

この講座は「日常的な見守りや声かけによる安否確認」、「ごみ出しや買物などの生活行為の一部が困難な方等に対する生活支援」等、住民同士が相互に助け合う仕組みを築くことを目的に開催しております。

当日は、菅田地区を代表する17名の方々にご参加いただきました。

前半は「地域を取り巻く福祉課題について」と題し、東京YMCA医療福祉専門学校の渡邊氏に講演をいただき、後半は「地域での支え合い活動の事例紹介」ということで、「みずき・かつら街おたすけ隊」の吉川氏に助け合い活動についてご紹介をいただきました。

この講座をきっかけに、見守り・支え合い活動が1つでも立ち上がっていただけると幸いです。

編集後記

甘い春の空気を胸いっぱい吸い込む今日この頃、何か始めてみたくになりますね。私はぎっくり腰防止に向け、週1で介護予防体操に取り組もうと思います(^_^)。健康寿命を延ばしましょう！(H・I)